

第3章 高槻市における自転車利用の現状と課題

1. 高槻市の概況

1) 地勢・気象

本市は京都市・大阪市の間に位置し、両市といずれも鉄道で約15分で結ばれています。市域北側の地形は、北摂連山に連なる丘陵地であり、南側は平野部を形成しています。降水量は全国平均より少なくなっています。

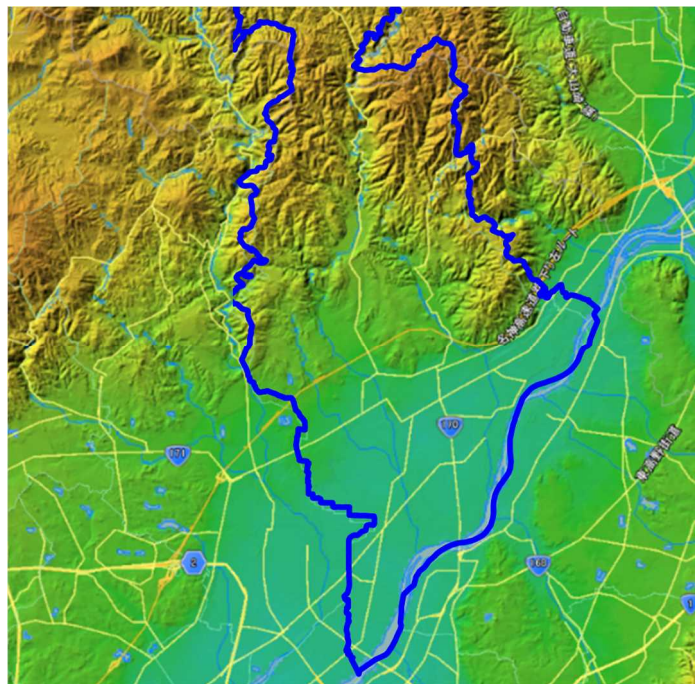


図3-1 色別標高図

出典：国土地理院ホームページ

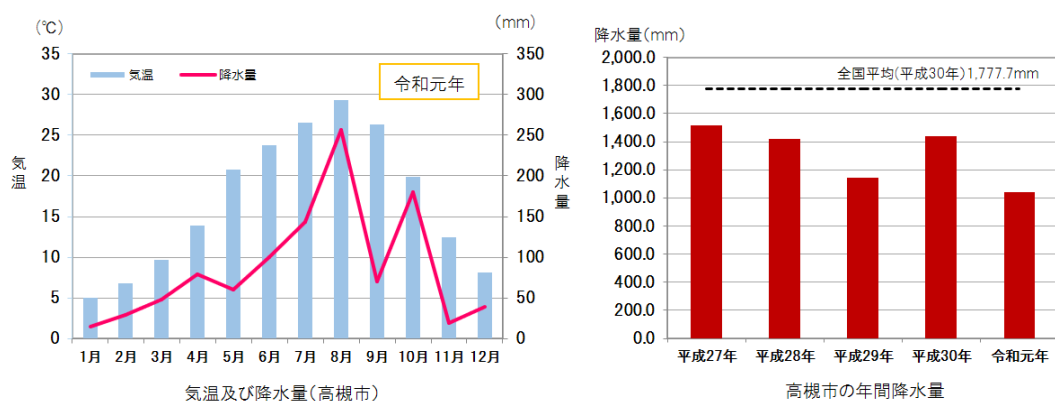


図3-2 降水量と気温

出典：高槻市統計書より作成

2) 人口

年齢別人口（令和4年3月末時点）では、男性は45～49歳が最も多く、次いで50～54歳が多くなっています。女性は70～74歳が最も多く、次いで45～49歳が多くなっています。

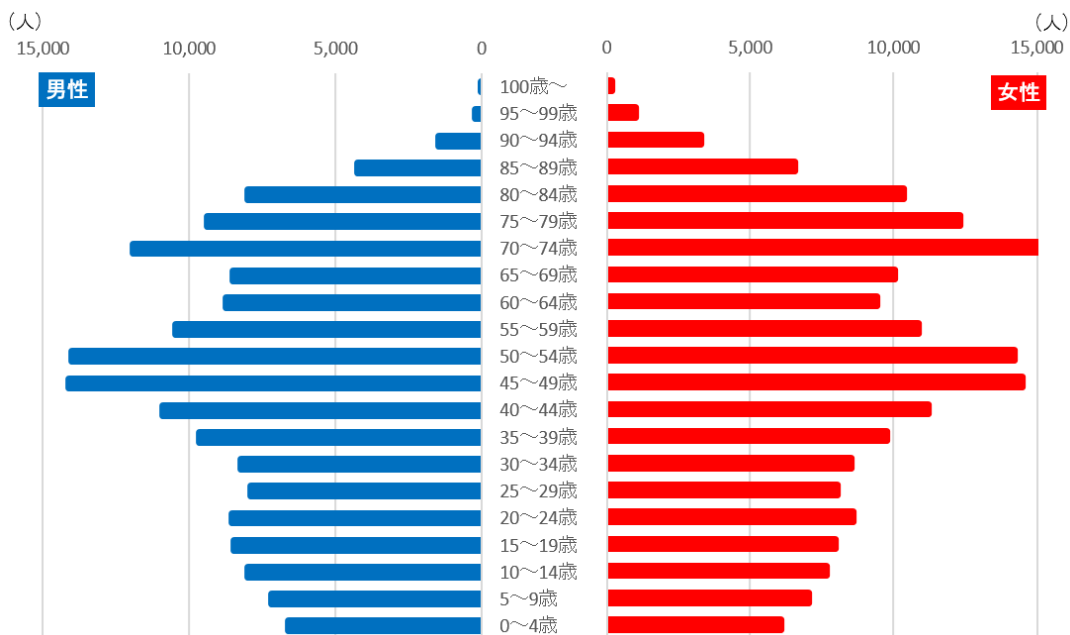


図3-3 年齢別人口（令和4年3月末時点）

3) 土地利用状況

人口分布は鉄道（JR及び阪急）線を中心に南北に広がっており、市街地は鉄道駅を中心に形成され、郊外にかけて住宅地が広がっています。

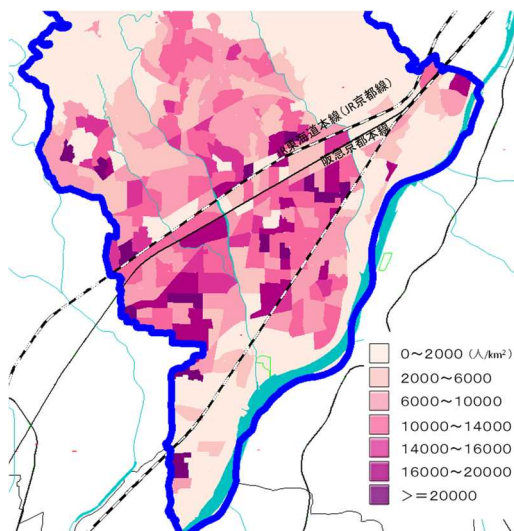


図3-4 町丁目別人口密度
出典：平成22年国勢調査より作成

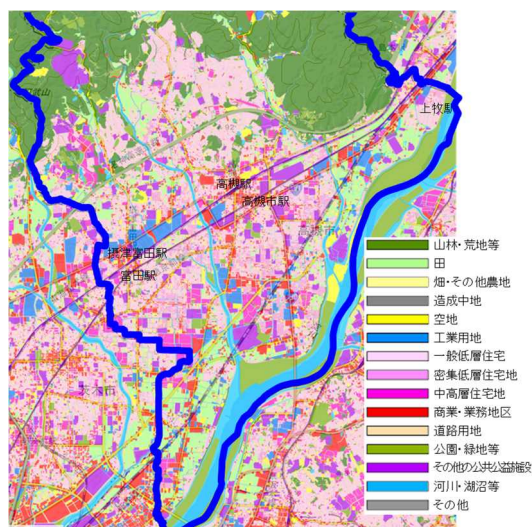


図3-5 宅地利用動向調査（平成16年）
出典：国土地理院資料より作成

4) 商業施設・スポーツ施設・文化施設

商業施設は主に駅周辺や幹線道路沿線に多く分布しており、観光施設・公園スポーツ施設及び文化施設は市域全体に広く分布しています。

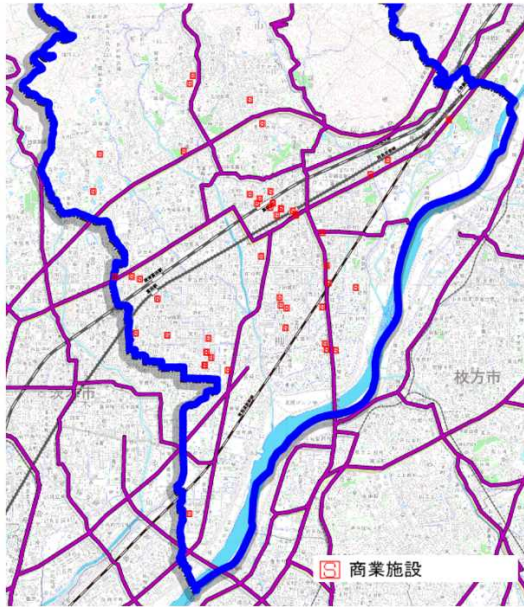


図3-6 主な商業施設の分布

出典：わが街高槻ガイド



図3-7 観光・文化・スポーツ施設

出典：わが街高槻ガイド



図3-8 摂津峡



図3-9 今城塚古墳



図3-10 古曾部防災公園



図3-11 安満遺跡公園

2. 高槻市における自転車の利用実態

1) 自転車通行空間に関する現状と課題

(1) 高槻市における自転車の利用状況

①自転車利用率

通勤・通学時の自転車利用率は、本市が全国の政令指定都市及び中核市の中で4番目に高く、自転車利用の多い都市となっています。

・平成22年国勢調査によると、通勤・通学時において、「自転車のみ」または「鉄道・電車及び自転車」を利用される方（常住地市区町村別の集計）の比率は28%と、全国の政令指定都市及び中核市の62都市の中で4番目であり、全国的に見ても自転車の利用が多くなっています。

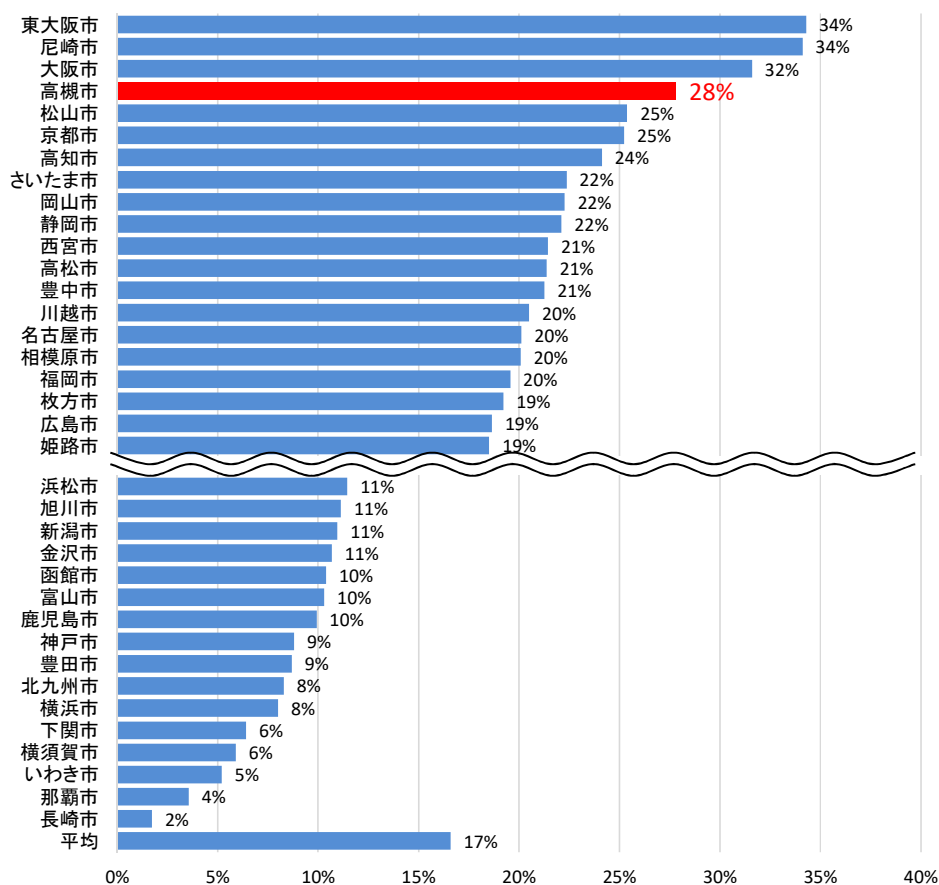


図3-12 政令指定都市・中核市における通勤通学時の自転車利用率

出典：平成22年国勢調査より作成

②路線別の自転車交通量

主に、幹線道路の自転車交通量が多くなっていますが、JR 高槻駅、阪急高槻市駅周辺及び JR 摂津富田駅、阪急富田駅周辺では、細街路でも自転車交通量が多くなっています。

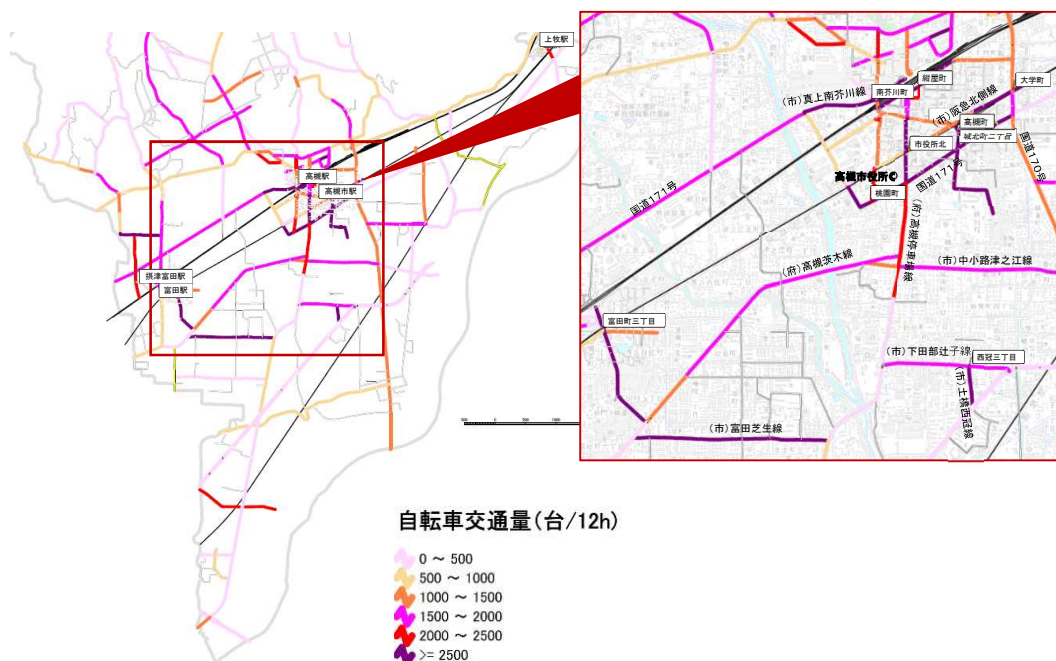


図 3-13 路線別の自転車交通量

出典：平成 26 年高槻市交通量調査結果（平日：7-19 時）及び平成 22 年道路交通センサスデータより作成

③地域間の自転車交通量

JR 高槻駅や阪急高槻市駅を含む地域間の自転車移動が多くなっています。

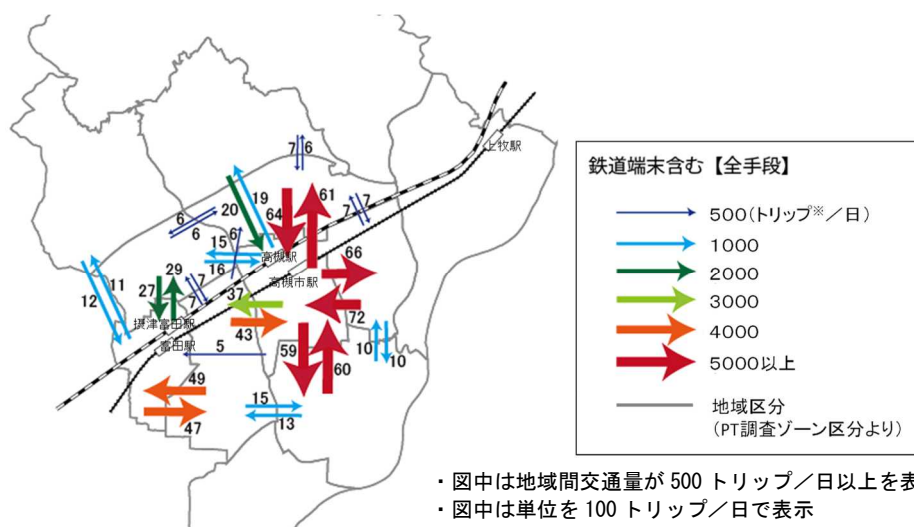


図 3-14 地域間の自転車交通量

出典：平成 22 年近畿都市圏パーソントリップ調査より作成

※ トリップ：ある目的（例えば、出勤や買物など）を持って起点から終点へ移動する際の、一方方向の移動を表すもの

④自転車利用者の属性

「60歳以上」の高齢者の自転車利用が多くなっていますが、全年代で比較的均等に自転車が利用されています。

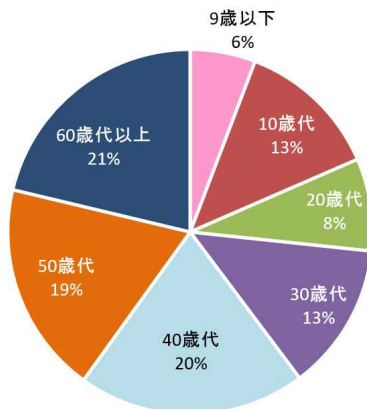


図3-15 年代別の自転車利用率

出典：平成30年度自転車保有実態に関する調査報告書より作成

(2) 自転車関連事故の状況

①自転車関連事故の発生件数

市内の事故件数については減少傾向にあります。全交通事故に占める自転車関連事故の割合は一定となっております。令和2年には33%を占め、大阪府(34%)と同程度の割合となっておりますが、全国(22%)と比較すると高い割合となっております。

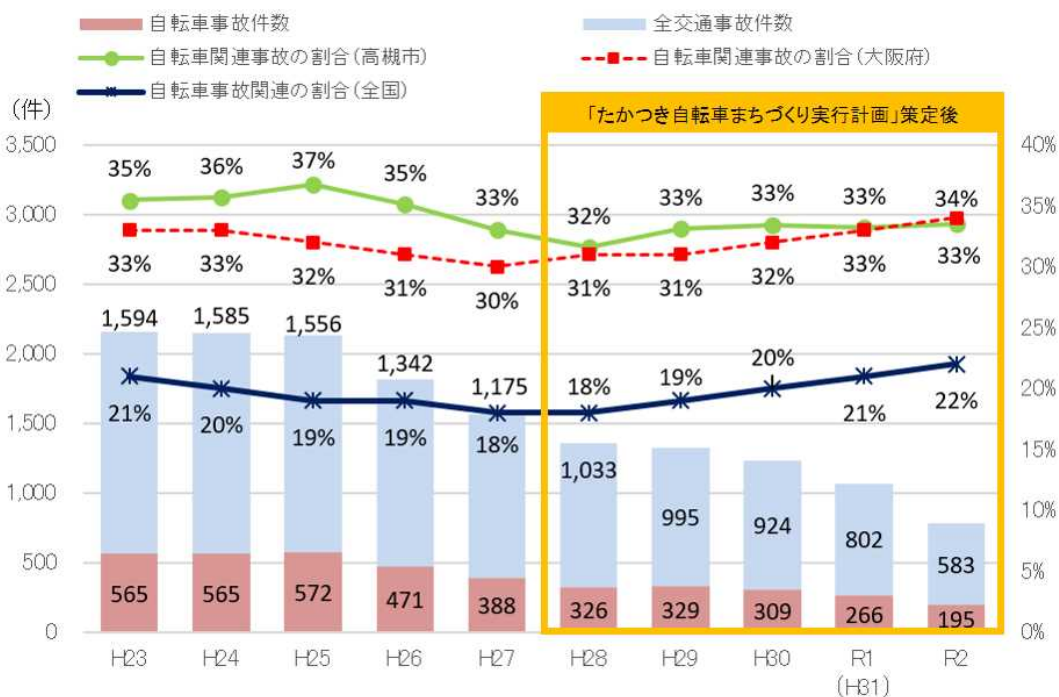


図3-16 自転車関連事故の発生件数

出典：大阪府警察資料より作成

②自転車関連事故の発生場所

国道・府道の幹線道路を中心に自転車関連事故が発生していますが、市道等の細街路においても事故が多く発生しています。

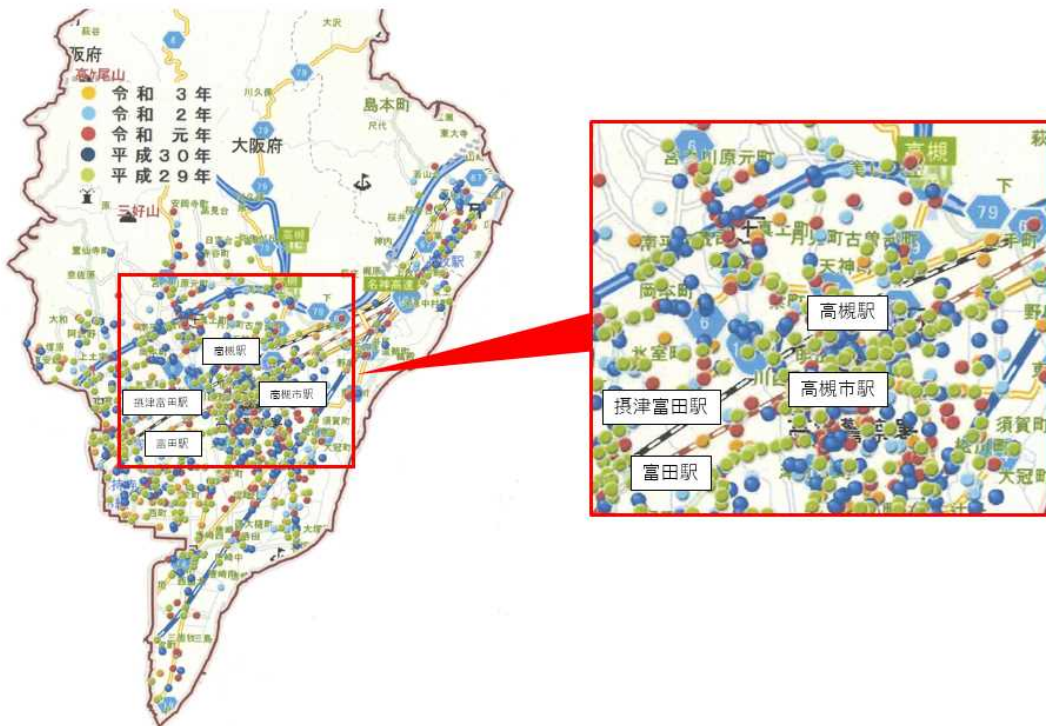


図3-17 自転車関連事故発生場所

出典：大阪府警察資料より作成（令和2年12月末）

③自転車関連事故の事故形態

自転車関連事故の事故形態としては、出会い頭事故が52%と最も多くなっています。また、発生箇所は、交差点等での事故が73%を占めています。

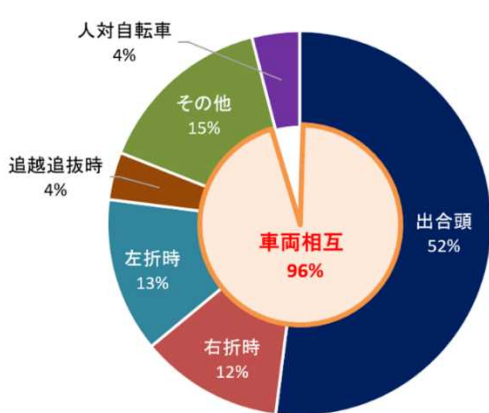


図3-18 自転車関連事故の事故形態（令和2年）

出典：大阪府警察資料より作成

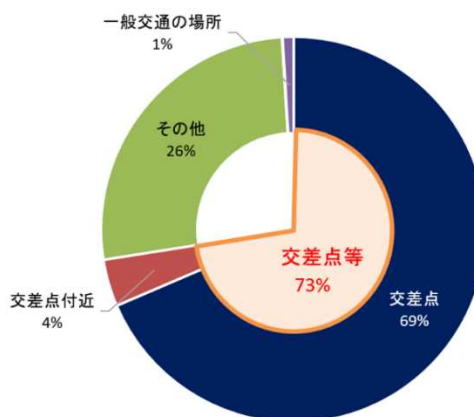


図3-19 自転車関連事故の発生箇所（令和2年）

出典：大阪府警察資料より作成

④年代別の自転車関連事故発生状況

令和2年の年代別自転車関連事故発生状況では、12歳以下、13～15歳、16～24歳～24歳といった学生を含む若年層が4分の1以上を占めています。

また、65歳以上の高齢者の20%程度の割合を占めており、直近の5年では横ばいとなっています。

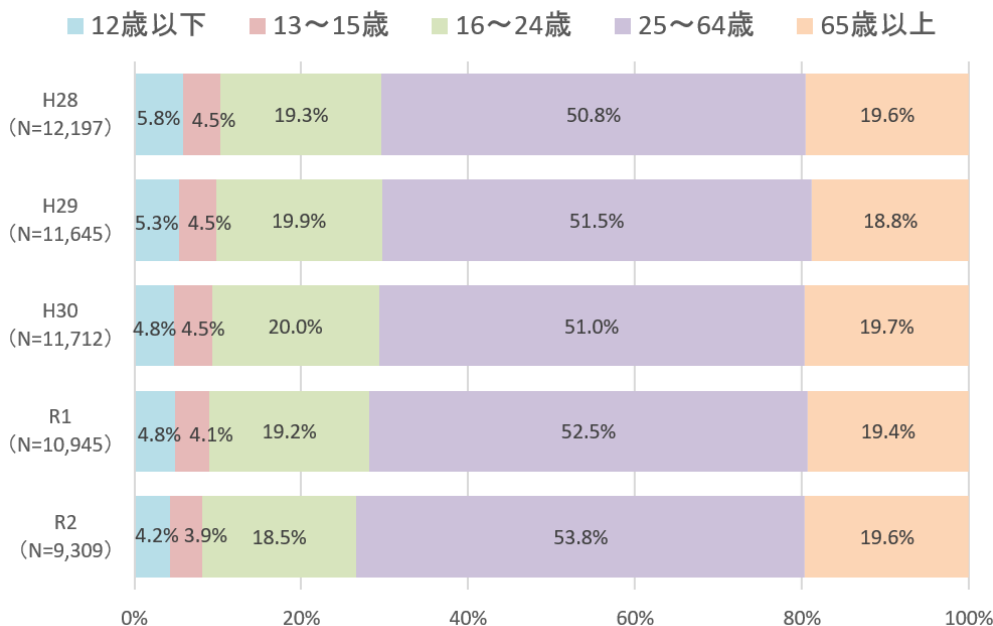


図3-20 年代別の自転車関連事故発生状況

出典：大阪府警察資料より作成

⑤自転車関連事故におけるヘルメットの着用状況

大阪府内における自転車関連事故におけるヘルメット着用状況は、非着用が95%以上を占めています。また、全国的な自転車死亡事故による損傷部位では、頭部の損傷が64%を占めています。

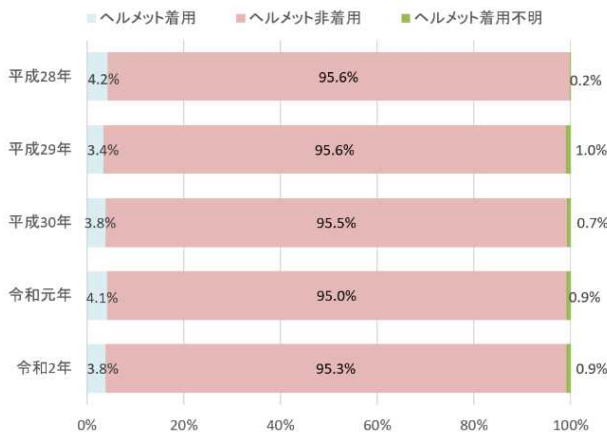


図3-21 自転車関連事故におけるヘルメット着用状況

出典：大阪府警察資料より作成

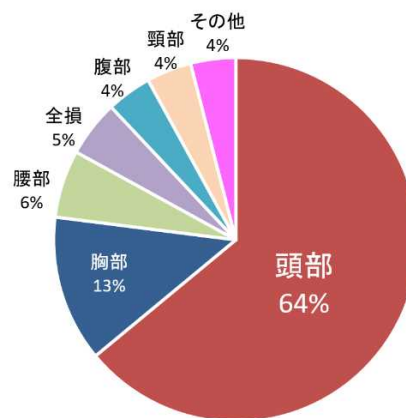


図3-22 自転車死亡事故による損傷部

出典：ITARDA 資料より作成 (H24年11月)

(3) 自転車利用環境に関するアンケート調査

本計画の改訂にあたり、令和3年11月～12月にかけて実施した「高槻市市民意識調査」において、本市における自転車利用の実態や課題、利用者のニーズ等を把握するため、自転車の利用に関しての意識調査を実施しました。調査概要は下表のとおりです。

表3-1 高槻市市民意識調査の概要

調査区域	高槻市全域
調査対象	高槻市に居住する18歳以上の男女 2,000人（無作為抽出）
調査方式	郵送による配付・回収（Web回答を併用）
調査期間	令和3年11月25日（木）～12月13日（月）
発送・回収	発送数：2,000件 回収数：556件（回収率27.8%、うち無効回答1件） Web回答：350件（回答率17.5%、うち無効回答1件） 有効回答数：904件（有効回収率45.2%）

①自転車の利用目的について

買い物や通勤による利用が7割以上を占めています。

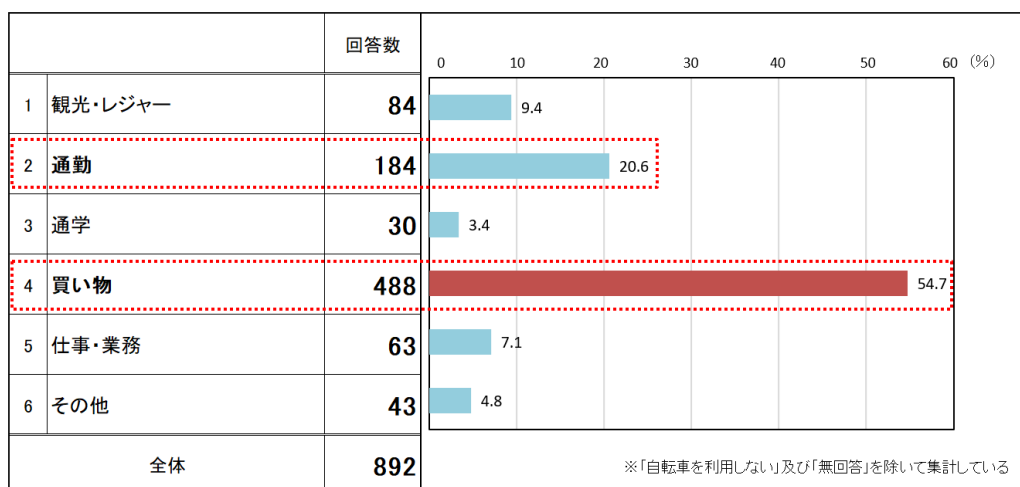


図3-23 自転車の利用目的

出典：令和3年度高槻市市民意識調査結果

②自転車を走りやすくするために必要な取組について（複数回答）

歩行者や自動車と分離した自転車通行空間の整備が求められています。

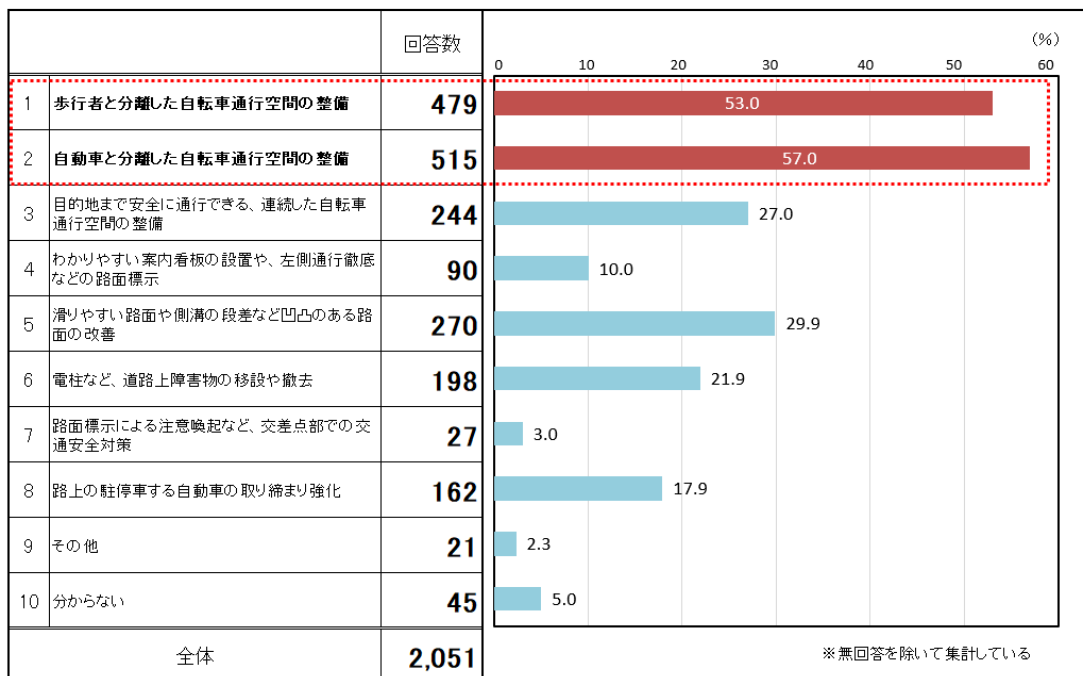


図3-24 自転車を走りやすくするために必要な取組

出典：令和3年度高槻市市民意識調査結果

③高槻市における自転車通行空間整備の満足度について

自転車通行空間整備に満足している割合が半数以下となっています。

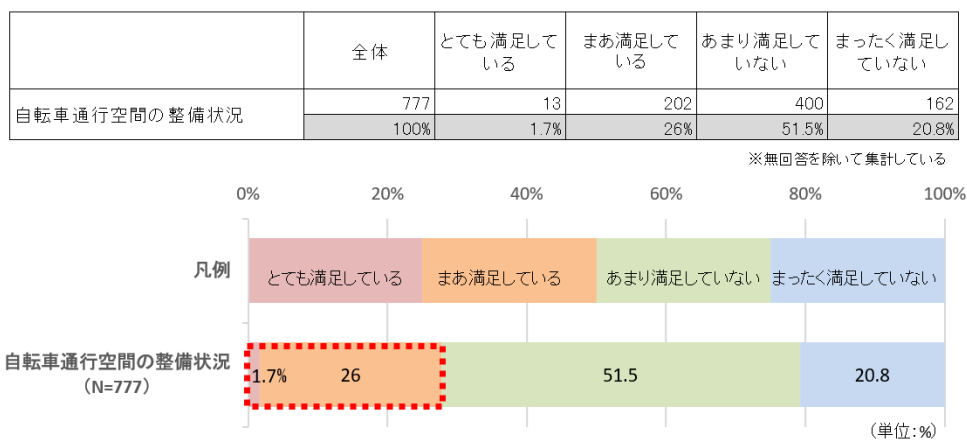


図3-25 高槻市における自転車通行空間整備の満足度

出典：令和3年度高槻市市民意識調査結果

(4) 自転車通行空間整備の状況

令和3年度末時点で、車道の左側通行を明示した自転車通行空間の整備延長が10.2kmとなっています。

①自転車道



図3-26 南平台日吉台3号線

②自転車専用通行帯



図3-27 八丁畷高垣線



図3-28 富田芝生1号線

③車道混在



図3-29 阪急北側線



図3-30 中小路津之江線

(5) 自転車通行空間に関する現状と課題のまとめ

◆高槻市は全国的にも自転車交通が多い

全国の中核市・政令指定都市の中で4番目に通勤・通学時の自転車利用が多く、特にJR高槻駅や阪急高槻市駅等の駅周辺に自転車交通が集中しています。

◆歩行者や車と分離した自転車通行空間が不足

令和3年度末で自転車通行空間が10.2km整備されていますが、自転車通行空間のネットワーク化が不十分であり、市民意識調査では、自転車を走りやすくするために必要な取組として、「歩行者や自動車と分離した自転車通行空間」が求められています。

◆自転車関連事故は若年層や高齢層で多く発生

令和2年の年代別自転車関連事故発生状況では、12歳以下、13～15歳、16～24歳といった学生を含む若年層が4分の1以上を占めています。
また、65歳以上の高齢者の20%程度の割合を占めていることから、若年層や高齢層の自転車事故が多く発生しています。

◆自転車関連事故は市全体で広く発生

自転車関連事故は、国道や府道の幹線道路を中心に発生していますが、市道などの細街路においても多く発生しています。

◆自転車関連事故は交差点付近で多く発生

自転車関連事故のうち、73%が交差点等で発生しています。

2) 駐輪環境に関する現状と課題

(1) 駐輪禁止区域

JR高槻駅・阪急高槻市駅とJR摂津富田駅・阪急富田駅、阪急上牧駅には自転車放置禁止区域を指定し、放置自転車の撤去を行っています。

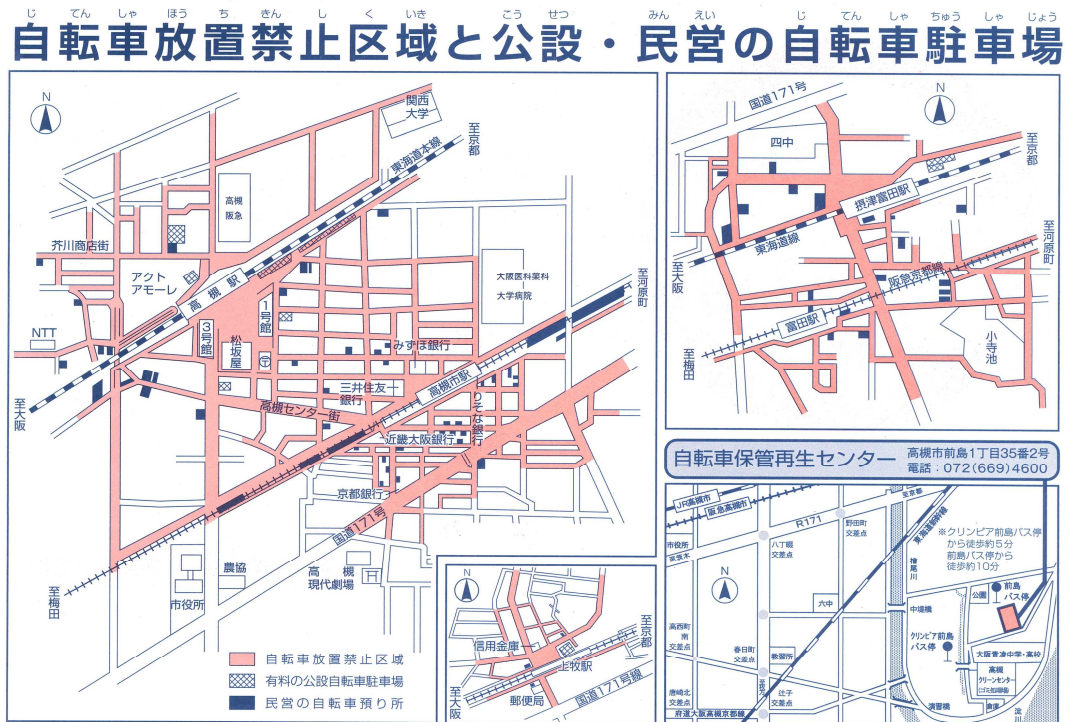


図3-31 自転車放置禁止区域



図3-32 自転車・原付放置禁止区域の明示



図3-33 JR高槻駅周辺の時間貸駐輪場

(2) 撤去自転車台数と返還台数

撤去自転車の台数は、年々減少傾向にあり、計画策定後も同様に減少傾向となっています。また、撤去自転車の返還率は約7割で推移しています。



図3-34 撤去自転車台数と返還台数

出典：高槻市放置自転車対策事業資料より作成

(3) 駐輪場の利用率

市立駐輪場の利用率は4～5割程度であり、民営駐輪場の利用率は約2～8割とばらつきがあります。阪急高槻市駅南側の利用率が約8割と最も高くなっています。

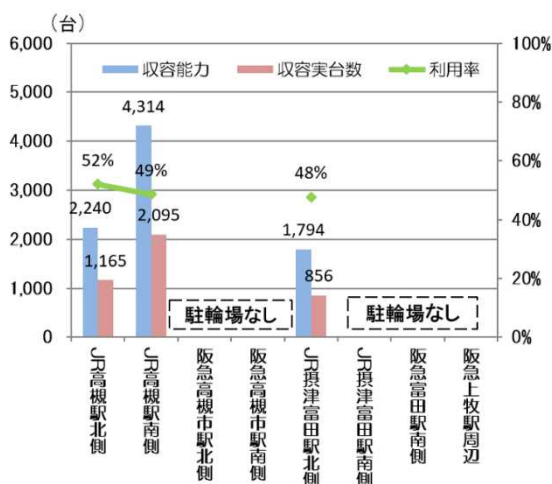


図3-35 市立駐輪場の利用率（平成30年調査）

出典：高槻市自転車利用実態調査資料より作成

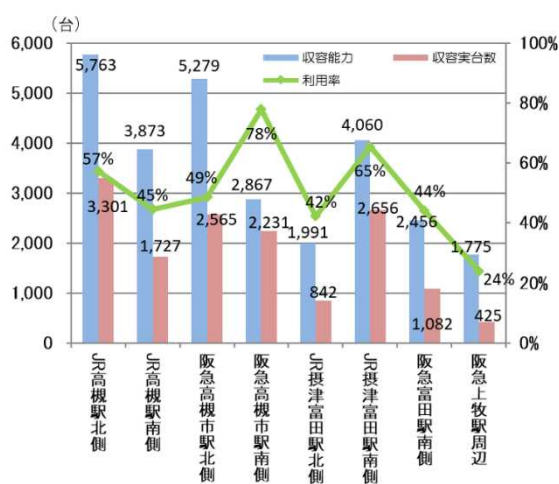


図3-36 民営駐輪場の利用率（平成30年調査）

出典：高槻市自転車利用実態調査資料より作成

(4) 自転車利用環境に関するアンケート調査

①駅前周辺の放置自転車を減らすために必要な取組について（複数回答）

「駐輪場や駐輪ラックを増やす」が約55%と最も多く、駐輪場所の増設が求められています。

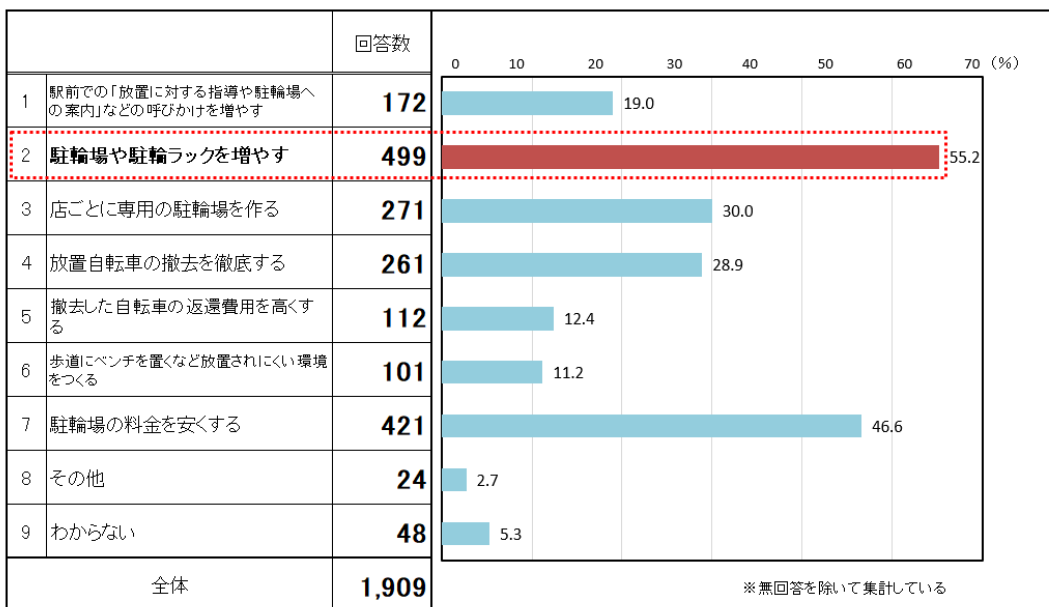


図3-37 駅前周辺の放置自転車を減らすために必要な取組

出典：令和3年度高槻市市民意識調査結果

②駐輪環境に対する満足度

「とても満足している」「まあ満足している」の合計が半数以上となっていますが、「あまり満足していない」「まったく満足していない」の合計も4割以上を占めています。

	全体	とても満足している	まあ満足している	あまり満足していない	まったく満足していない
放置自転車対策を含む「駐輪環境」	789	28	403	285	73
	100%	3.5%	51.1%	36.1%	9.3%

※無回答を除いて集計している

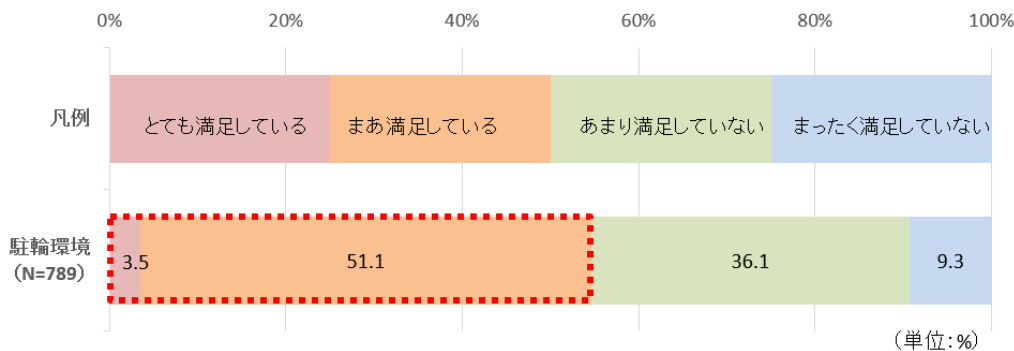


図3-38 駐輪環境に対する満足度

出典：令和3年度高槻市市民意識調査結果

(5) 駐輪環境に関する現状と課題のまとめ

◆ 駅周辺に駐輪需要が集中

自転車交通の多い駅周辺に、市立駐輪場及び民営駐輪場が多く立地しており、駅周辺に駐輪需要が集中しています。

◆ 駐輪施設により利用率にばらつきあり

駅に近い駐輪施設の利用率を見ると、阪急高槻市駅南側で約80%と高くなっていますが、余裕のある施設も多く、駅前環境等によって利用率にばらつきがあります。

◆ 駐輪可能台数の増加が求められている

市民意識調査では、駅前周辺の放置自転車を減らすために必要な取組として、「駐輪場や駐輪ラックを増やす」が最も多く、駐輪場所の増設が求められています。

3) 自転車ルール・マナーに関する現状と課題

(1) 自転車関連事故の原因

自転車関連事故の原因としては、「安全不確認」が38%と最も多く、次いで「動静不注視」が23%と多くなっています。また、自転車関連事故の約8割が自転車側に何らかの違反があることで発生しています。

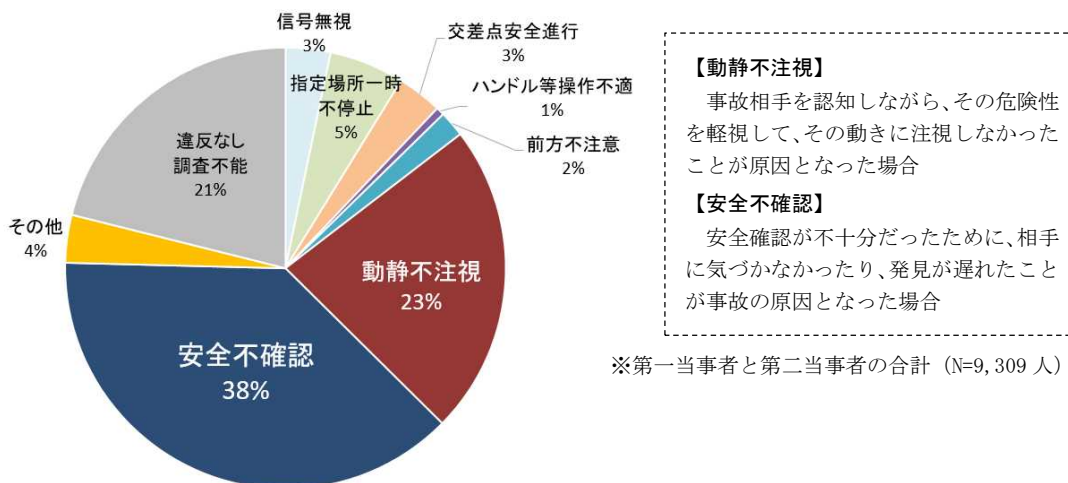


図3-39 自転車関連事故の自転車側の原因 (令和2年)

出典：大阪府警察資料より作成

(2) 自転車利用環境に関するアンケート調査

①自転車の通行場所について

自転車を利用する時の通行場所は、「車道左側」が全体の半数以上を占めていますが、「歩道」も4割以上と多くなっています。

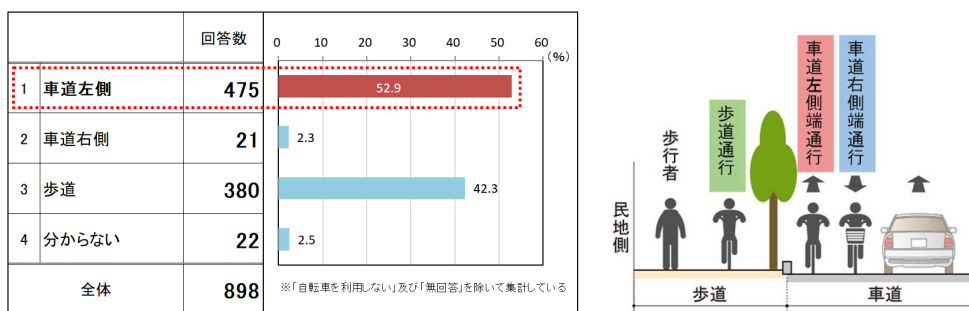


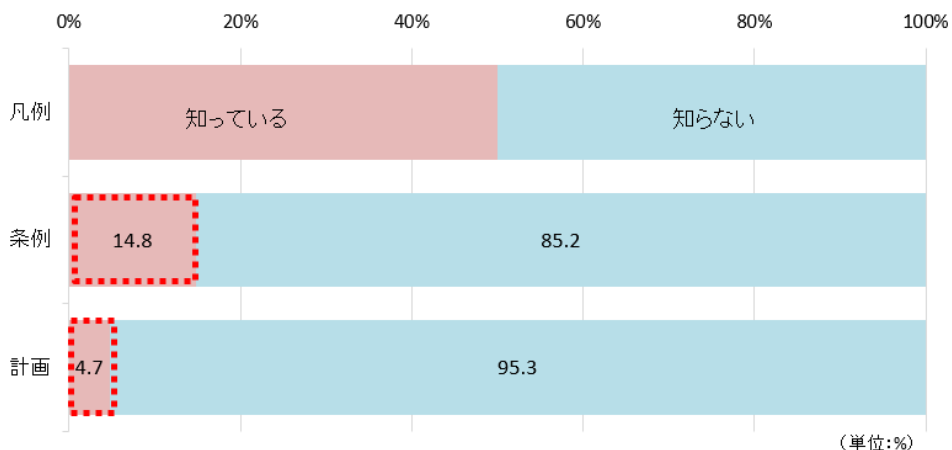
図3-40 自転車の通行場所

出典：令和3年度高槻市市民意識調査結果

②自転車の安全利用に関する条例や計画の認知度について

条例や計画の認知度が1割前後と低く、周知が不足しています。

	全体	知っている	知らない
1.高槻市自転車安全利用条例	871	129	742
	100.0%	14.8%	85.2%
2.たかつき自転車まちづくり向上計画及び実行計画	857	40	817
	100.0%	4.7%	95.3%



※無回答を除いて集計している

図3-41 自転車の安全利用に関する条例や計画の認知度

出典：令和3年度高槻市市民意識調査結果

③自転車乗車時のヘルメット着用状況について

着用している人が約1.7%であり、ヘルメットの必要性についての認識が不足しています。

	回答数
1 着用している	10
2 着用していないが、購入を検討している	6
3 着用の努力義務は知っているが着用していない	98
4 着用していない	467
全体	581

※「自転車を利用しない」及び「無回答」を除いて集計している

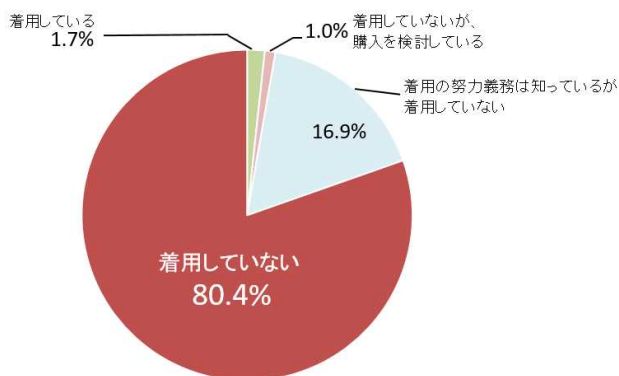


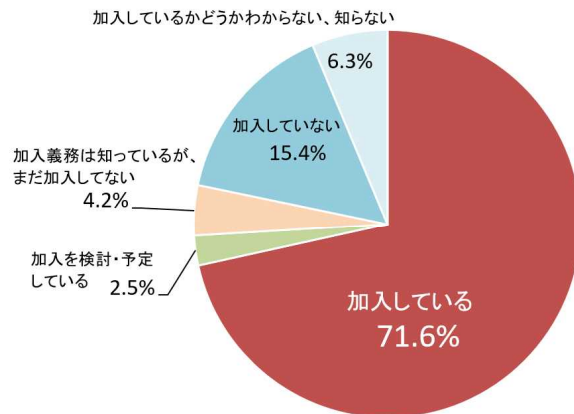
図3-42 自転車乗車時のヘルメット着用状況

出典：令和3年度高槻市市民意識調査結果

④自転車保険への加入状況について

大阪府内で自転車保険への加入が義務化されているにも関わらず、加入率は約7割となっています。

	回答数
1 加入している	441
2 加入を検討・予定している	15
3 加入義務は知っているが、まだ加入していない	26
4 加入していない	95
5 加入しているかどうか分からない、知らない	39
全体	616



※「自転車を利用しない」及び「無回答」を除いて集計している

図3-43 自転車保険への加入状況

出典：令和3年度高槻市市民意識調査結果

⑤自転車交通ルール・マナーの周知に向けた取組に関する満足度

「あまり満足していない」「まったく満足していない」の合計が約73%となっており、「とても満足している」「まあ満足している」の合計約27%を大きく上回っています。

	全体	とても満足している	まあ満足している	あまり満足していない	まったく満足していない
自転車交通ルール・マナー周知に向けた取組	774	16	192	406	160
	100%	2.0%	24.8%	52.5%	20.7%

※無回答を除いて集計している

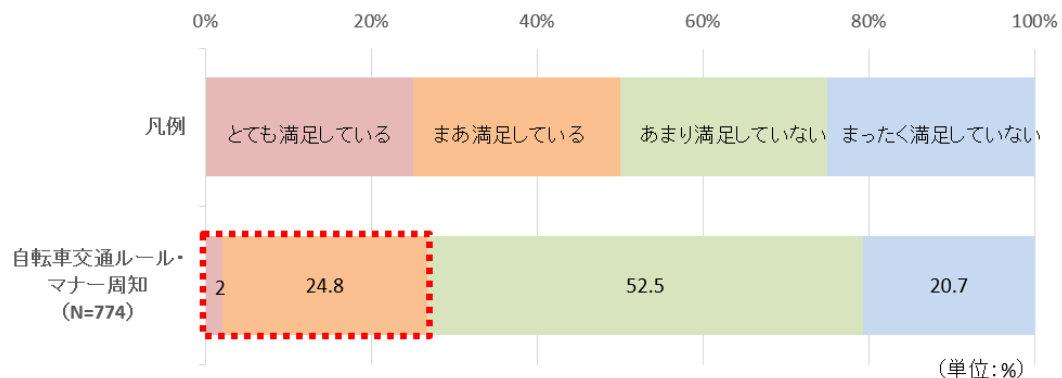


図3-44 自転車交通ルール・マナーの周知に向けた取組の満足度

出典：令和3年度高槻市市民意識調査結果

(3) 自転車交通ルールの周知に向けた取組状況

本市では、「みんなで学ぶ交通安全教室」（旧「親と子の交通安全教室」）を市内の公立小学校で開催するとともに、街頭での啓発活動や高齢者交通安全リーダー制度・交通指導員制度の導入、ポスターや横断幕の掲出による自転車交通ルール周知に向けた取組を行っています。



図3-45 みんなで学ぶ交通安全教室



図3-46 街頭での啓発活動

表3-2 交通安全教室の開催状況（令和元年度）

開催場所	回数	参加人数
小学校(親と子)	8回	3,719人
小学校(親と子以外)	15回	1,159人
中学校	3回	332人
高等学校	1回	320人
社会福祉協議会	1回	45人
シニアクラブ	3回	95人
その他	2回	100人
合計	33回	5,770人

表3-3 高齢者交通安全リーダーを対象とする研修（令和元年度）

研修名	参加対象 クラブ数	参加対象 人数	参加 人数	備考
高齢者交通事故現場 検証研修会	13団体	26人	24人	市内に13ある地区連合から各2団体のリーダーを対象に、座学と現場検証を実施。
高齢者交通安全 リーダー研修会	128団体	249人	220人	全団体のリーダーを対象に、座学と交通安全啓発映画上映を実施。

表3-4 交通指導員による街頭指導（令和元年度）

校区数	街頭指導回数	指導員数	備考
41校区	12回	796人	毎月1回、各校区の交通指導員が通学路に立ち、登校中の小学生への街頭指導を実施。

(4) 自転車交通ルールの周知に向けた現状と課題のまとめ

◆自転車事故は自転車に違反のある事故が多い

自転車関連事故の約8割は、自転車側に何らかの違反があります。

◆自転車利用者の多くが歩道を通行

計画の策定により「車道の左側通行」の割合は増加しましたが、依然として自転車利用者の歩道通行の割合が高く、歩行者の通行を阻害している状況もみられます。

◆自転車の交通ルールの周知に向けた取組の充実が求められている

市民意識調査では、自転車交通ルール・マナーの周知に向けた取組に対する満足度が約3割と低く、学校での交通安全教室などの自転車交通ルールの周知に向けた様々な取組が求められています。

4) 自転車の利用促進に関する現状と課題

(1) 自転車利用促進に関する取組状況

サイクルコンベアやサイクル&バスライド駐輪場(6箇所)の整備により自転車の利用促進を図っています。



図3-47 サイクルコンベア(弁天こ線橋)



図3-48 サイクル&バスライド駐輪場

(2) 自転車利用環境に関するアンケート調査

① 自転車の利用促進に関する満足度

「自転車利用を促進する取組」については、「とても満足している」「まあ満足している」の合計が約32%となっており、「あまり満足していない」「まったく満足していない」の合計約68%を大きく下回っています。

	全体	とても満足している	まあ満足している	あまり満足していない	まったく満足していない
自転車利用を促進する取組	742	17	222	379	124
	100%	2.3%	29.9%	51.1%	16.7%

※無回答を除いて集計している

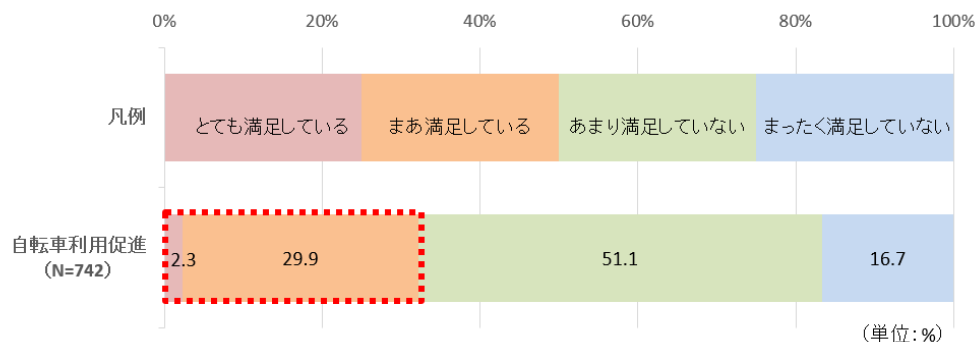


図3-49 自転車の利用促進に関する満足度

出典：令和3年度高槻市市民意識調査結果

(3) 自転車利用促進に関する現状と課題のまとめ

◆サイクルコンベアやサイクル&バスライド駐輪場の整備

駅前におけるサイクルコンベアやバス停に隣接したサイクル&バスライド駐輪場を整備するなど、自転車の利用促進に向けた取組を行っています。

◆安全・快適な自転車通行空間の整備が求められている

市民意識調査では、市で実施している自転車利用を促進する取組の満足度が約3割と低くなっています。

(4) 関係団体へのヒアリング調査の実施

本計画の改訂にあたり、自転車の利用状況や自転車利用に関する取組等について把握することを目的に、商業者や学校、交通関係の団体を対象としたヒアリング調査を実施しました。調査概要及び調査結果は下表のとおりです。

表3-5 ヒアリング調査の概要

目的	関係団体からの意見を踏まえて計画の見直しを行う
日時	令和3年12月2日～令和3年12月10日
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の利用状況について ・自転車利用に関する取組について ・自転車通行空間について ・自転車利用における要望について
対象	<p>◇商業者（商店街）</p> <p>芥川商店街事業協同組合、アクトアモーレ店舗会、高槻センター街事務局</p> <p>◇学校</p> <p>大阪府立大冠高等学校、大阪府立高槻北高等学校</p> <p>◇交通関係</p> <p>高槻警察署、交通指導員協議会、高槻自動車教習所</p>

表3-6 ヒアリング調査結果

対象	主な意見	
商業者 (商店街)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車に乗ったまま商店街を通行する人が多い ・店舗前の違法駐輪
	要望	<ul style="list-style-type: none"> ・市が実施する街頭指導実施時間帯の見直し ・自転車の降車に関する看板や横断幕の設置、関係団体と連携した街頭指導を行っているが、啓発効果が乏しいことからハード対策をしてほしい ・商店街近くに駐輪場を整備してほしい
学校	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による街頭指導や啓発活動を実施しているが、登下校時の生徒の自転車乗車マナーが悪い ・登校時の生徒の事故
	要望	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時間帯における車の交通規制（特に小中のスクールエリア） ・バスが通る路線に青色の矢羽根を設置してほしい
交通関係	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車乗車マナーが悪い ・子どもの保護者への交通安全教育の機会がない ・学生や高齢者の自転車乗車マナーが悪い ・車道の急な横断（高校生・高齢者）
	要望	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の保護者への交通安全教育の場を設けてほしい ・自転車通行空間の逆走や信号無視を見かけるので、自転車利用者に対しての周知をしてほしい

5) 高槻市における自転車利用環境に関する現状と課題の整理

表3-7 自転車利用環境に関する現状と課題

	現状のまとめ	主要な課題
自転車 通行空間	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の交通量が多い（特に、駅周辺に集中） ・自転車関連事故は若年層や高齢層で多く発生 ・自転車関連事故は幹線道路だけでなく、細街路でも発生 ・自転車関連事故は交差点付近で多く発生 ・歩行者や自動車と分離した自転車通行空間が求められている ・歩道を通行する自転車が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ◇安全で快適な自転車通行空間が不足 ◇自転車の歩道通行が多い
自転車 駐輪環境	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺に駐輪需要が集中 ・駐輪施設により利用率にばらつきあり ・駅周辺の駐輪ラックや駐輪場の整備が必要 ・駐輪場料金の値下げを求める声の一部が出ている ・放置自転車の更なる撤去 	<ul style="list-style-type: none"> ◇駅周辺の駐輪需要等への更なる対応
自転車の ルール・ マナー	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車事故は自転車に違反のある事故が多い ・自転車利用者の多くが歩道を通行 ・自転車乗車時のヘルメット着用率が低い ・商店街において自転車に乗ったまま通行する人が多い ・学生や高齢者等への交通安全教育の充実が求められている 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自転車利用者の交通ルール等の知識不足
自転車 利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクル&バスライド駐輪場を整備 ・買い物や通勤での自転車利用が多い ・自転車の利用促進を図るためにも、安全・快適な自転車通行空間の整備が求められている ・自転車の利用促進についての満足度が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自転車を快適に利用するための取組が不足

